



《表紙の風景》
東雲キャナルコト CODAN
多彩な分野の専門家による企画とトップレベルの建築家のコラボレーションで生まれた都市機構(旧都市公園)はじめてのデザイン・ズマンション群。「どこに住む」ではなく「どう住むか」というテーマが提唱され話題を集めた東京臨海部のプロジェクトです。

IR情報

投資家等説明会の開催

本年1月14日、都内大手町サンケイプラザにて投資家等説明会を開催しました。当日は、証券各社のアナリスト、投資家や借入金融機関の皆様など70社120名超の多数の参加があり、伴理事長自らが経営の理念や今後の事業展開を投資家の皆様にご説明しました。



投資家等説明会で説明する伴理事長

格付けAA(ダブルA)への格上げ

社債を発行するためには、格付機関の格付けが必要となります。従来、当機構は「A+(シングルAプラス)」という格付けでしたが、経営改善に向けた方策が評価されたことで、R&I社から「AA(ダブルAフラット)」に引き上げられました。投資家にとっては、このような格上げは前例がなくビッグ・サプライズと受け止められたようです。更に、ムーディーズ社からも新たに「A2」という日本国債と同一の格付けも得ました。格上げの追い風を受け、今後、新規及び外資系の投資需要も見込まれます。



アメリカの機関投資家の訪問を受ける
田中経理資金担当理事(右から3人目)

編集後記

あらゆる生き物は水によって命が与えられ、まちも都市も水のあるところで生まれ育ちます。今号は水の都 江戸を継承する東京臨海部をテーマとして、都市における水辺と人間らしい暮らしという視点から、水辺、下町、コミュニティと、都市づくり、まちづくりのあり方をさぐりました。

特別インタビュー - はベルリン映画祭に出発直前の山田洋次監督に話を伺うことができました。鼎談は東京臨海部をめぐる気鋭の建築家 隈研吾さん、当機構理事の松野仁、そして女性の都市プランナー - でヨットをライフスタイルとされている三浦由理さんにコ・ディネータ - をお願いして話を展開していただきました。

脚光を浴びる東京臨海部にぜひご注目ください。

季刊「ユー・アール・プレス・春号」
Vol.3(2005年4月)
発行 独立行政法人都市再生機構
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1
横浜アイランドタワー Tel.045-650-0881
編集・制作(株)日本経済社
(株)リアソシエーツ
印刷 (株)アイネット

子供向けサイト 「URキッズタウン」 スタート!

アドレスはこちら!

<http://www.ur-net.go.jp/kids/>



山崎 伊藤さん、ライフライン、住宅地域のつながり、それが全部で災害に強いまちということになるのでしょうか。



震災の教訓をいかした水のあるコミュニティ空間
「ルゼフィール井吹台」(神戸市)



かつてのコミュニティを大切にきた下町型集合住宅
「東尻池コート」(神戸市)

伊藤 自分のことで申し上げると、道路の向かい側にあるたばこ屋さんは2階建てで、下に87歳のおじいさんと85歳のおばあさんが住んでいる。最近腰が弱くなって、寝たきりなのかほとんど出てこない。地震のとき、隣の人たちと、まず、そのたばこ屋さんのお年寄りがどうなっているかを確認するのが一番大事なことですね。

2番目は、水です。地震のとき、水さえあれば、何とか生き延びられます。ネットワークの水道は弱い、東京都の

竹下 自分の命は自分で守る、そのために、どういう場所ですという家に住んでいるか、個々がチェックする。それから、地域のネットワーク、コミュニティというものをみんなで考えていく、元気なお父さんも、仕事場だけでなく、地域、家庭も顧みてほしい、の3つです。

山崎 おじいさんも大事にしてほしいなと私は思いますけれども(笑)、皆さんに、今後に向けての提言を一言ずつ。

もうちょっと現代的に考えますと、まちの中でお年寄りが安心して快適に暮らせるまちをつくるということが、結果として災害に強いまちになる。お年寄りでも、実はご婦人方はものすごく元気で、元気なお年寄りの9割は、高齢の女性だそうなんです。そういうおばあさんたちにお節介をしてもらって、防犯も防災も介護もやると、結果として若者にとってもいいまちになる。元気なおばあさんを大事にする中心市街地をつくるのが地震に対しても強いまちになることだという、ちょっと変な結論なんですけれども(笑)。

小林 都市そのものが木造密集地域で非常に弱い、それを高層化耐火造の建物に変えていくことで、物理的に、火災や地震に対しては強くなるだろうと思います。しかし一方で、単身居住が40%、また賃貸率が70%で、建物の中で地震で動けなくなったら、助けを求められないのではいけません。地域の中で声をかけ合うというコミュニティづくりを、ぜひお願いしたいと思います。

和泉 阪神・淡路の大きな犠牲のもとに、さまざまな制度拡充がされてきました。この経験、教訓、失敗をきっちりとして次につなげることが大事だと思っています。しかし、制度は整備されても最後は人です。どんな仕組みをつく

かの仕組みをつくっておかないと、そこで落ち込んで復興できない。このところが大きな課題です。

阪神・淡路直前の北海道奥尻島の津波災害、雲仙普賢岳の噴火災害では義捐金が200億あるいは300億円も集まり、被災世帯1世帯当たり一千万円以上配分することができました。

阪神・淡路大震災では1800億円という、おそらく人類史上初めての巨額の義捐金とありますが、全半壊世帯だけでも46万世帯、1世帯当たり100万円と約40万円の配分で終わりました。考えてみると、日本全体が国際的に比較しても大きな力を持っているわけですから、善意を寄せ合う仕組みをつくっておけば、高齢者を中心として、一番大切な初期の道筋をつけるための支援に力を発揮することができ、そういう国民的なコンセンサスができるだけ早くつくるべきだと思っています。

伊藤 平成9年の東京都の災害予測では、火災で38万戸、揺れて2万8000戸、全部で42万戸倒壊、あるいは燃えるのです。これはあくまで想定で、行政や企業、市民の努力で、数字は変わっていくわけです。例えば、1室だけ改造して家具を固定する。そんなにお金がかかりませんか。それだけで人命は救われ、けが人が少なくなる。建物も全壊が半壊になります。

山崎 私は仕事柄、たくさん被災地に取材に出かけて痛感したことは、日本は本当に災害が多い、いつだれが被災者になってもおかしくない国に住んでいるということなんです。防災対策とは、地方自治体、地域、個人、それぞれが役割を果たすことで災害に強いまちをつくっていくことにはかなり不安です。これからは取材者の立場から、安全で災害に強いまちづくりを懸命に考えていきたいと思っています。今日はありがとうございました。(拍手)

伊藤 平成9年の東京都の災害予測では、火災で38万戸、揺れて2万8000戸、全部で42万戸倒壊、あるいは燃えるのです。これはあくまで想定で、行政や企業、市民の努力で、数字は変わっていくわけです。例えば、1室だけ改造して家具を固定する。そんなにお金がかかりませんか。それだけで人命は救われ、けが人が少なくなる。建物も全壊が半壊になります。

小林 都市そのものが木造密集地域で非常に弱い、それを高層化耐火造の建物に変えていくことで、物理的に、火災や地震に対しては強くなるだろうと思います。しかし一方で、単身居住が40%、また賃貸率が70%で、建物の中で地震で動けなくなったら、助けを求められないのではいけません。地域の中で声をかけ合うというコミュニティづくりを、ぜひお願いしたいと思います。

和泉 阪神・淡路の大きな犠牲のもとに、さまざまな制度拡充がされてきました。この経験、教訓、失敗をきっちりとして次につなげることが大事だと思っています。しかし、制度は整備されても最後は人です。どんな仕組みをつく

かの仕組みをつくっておかないと、そこで落ち込んで復興できない。このところが大きな課題です。

阪神・淡路直前の北海道奥尻島の津波災害、雲仙普賢岳の噴火災害では義捐金が200億あるいは300億円も集まり、被災世帯1世帯当たり一千万円以上配分することができました。

阪神・淡路大震災では1800億円という、おそらく人類史上初めての巨額の義捐金とありますが、全半壊世帯だけでも46万世帯、1世帯当たり100万円と約40万円の配分で終わりました。考えてみると、日本全体が国際的に比較しても大きな力を持っているわけですから、善意を寄せ合う仕組みをつくっておけば、高齢者を中心として、一番大切な初期の道筋をつけるための支援に力を発揮することができ、そういう国民的なコンセンサスができるだけ早くつくるべきだと思っています。

伊藤 平成9年の東京都の災害予測では、火災で38万戸、揺れて2万8000戸、全部で42万戸倒壊、あるいは燃えるのです。これはあくまで想定で、行政や企業、市民の努力で、数字は変わっていくわけです。例えば、1室だけ改造して家具を固定する。そんなにお金がかかりませんか。それだけで人命は救われ、けが人が少なくなる。建物も全壊が半壊になります。